記事 047　　くじらの博物館と夏の大三角形と半円の虹

村松憲一

和歌山県太地町の太地町立くじらの博物館へ行ってきました。太地は古式捕鯨発祥の地として名高く，紀州藩の保護もあってたいへん栄えたそうです。捕鯨に関する展示もあり鯨類の生態や人との関わりについての資料が保管・展示されています（図 1)。セミクジラやホッキョククジラの実物全身骨格標本も見応えがありますが，セミクジラの内臓別の標本（図 2）などがとても珍しく感じました。クジラの先祖？と考えられているパキケトゥスの骨格標本も目を引きます（図 3)。パキケトゥスはオオカミのような姿をした陸生・淡水生の哺乳類で，川辺などで魚や小動物を食べて暮らしていたと考えられています。耳の骨の構造にクジラ特有の特徴が見られるそうです。パキケトゥス類は脚が細長く，手足は相対的に短く，水を掻くのには適した形ではなかったようです。陸上生活のほうに向いていたと考えられています。

ふれあいプールでは，観光客が自分でイルカ類に魚を与えることができます（図 4)。魚は有料（￥300）ですが，自分の手でエサを与えられるのは人気のようです。餌を待つイルカは可愛いですが，気を付けていないと水を掛けられます。



図 1　クジラの博物館内部



図 2　セミクジラの内臓別の標本展示



図 3　パキケトゥス（クジラの先祖？）



図 4　ふれあいプールでイルカにエサやり

和歌山県太地町沖で捕獲されたシャチの 1 頭が，2003 年にくじら博物館から名古屋港水族館に貸し出されましたが，2008 年に亡くなっています。1986 年頃に太地町で捕獲され，長年太地町立くじらの博物館の生け簀などで飼育されていたシャチは 2010 年に名古屋港水族館に約 5 億円で購入されましたが 2011 年に亡くなっています。



図 5　海洋水族館水中トンネル大水槽



図 6　第一京丸

敷地内の少し離れたところにある海洋水族館マリナリュウムは，1971 年にオープンした水族館施設です。現在，大水槽では小型の鯨類と珍しいアルビノのバンドウイルカが飼育展示されています（図 5：左はマダライルカ，右はバンドウイルカかなと思いますが自信はありません）。

隣接するくじら浜公園には第一京丸という捕鯨船が屋外展示されています。1971 年につくられた大型の捕鯨船（キャッチャーボート：812 t）で，商業捕鯨が禁止されてからは調査捕鯨で活躍したそうです。2007 年に引退し，くじら浜公園に 2012 年から展示されています。内部は当時のまま保存されているそうですが見学はできません。船体に大きく「RESEARCH」と書かれています。

太地くじらの博物館マリナリュウムや海岸では熊野層群の地層が見られます。



図 7　マリナリュウム周辺で見られる熊野層群

食事のために出かけた途中（2026 年 11 月 1 日 18 時半ころ）で，ふと空を見上げると夏の大三角形の星座（こと座・わし座・白鳥座）が北西の天頂付近に見られました。夏の大三角は一年を通して見られますが，一番観測しやすい時期が 7 月～8 月頃です。「冬の大三角」と比べると，夏の大三角のこと座などは北極星に近いかなり北寄りの位置にあるので見えている期間が長いようです。肉眼では白くぼんやりしているだけですが，天の川も見られました（図 8・図 9・図 10。）デジカメで撮った写真であること，近くに街路灯があるなど，観測には最適地ではありませんが，以前にオーストラリアで何度か南十字星の写真を撮ったことを思い出し，今のスマホの良さに感心した次第です。拡大すればお分かりになるかと思いますが，鮮明でないのはお許しください。



図 8　夏の大三角形



図 9　夏の大三角形
（説明用）



図 10　天の川
ぼんやり白っぽく見える

日の出のころ，ホテルの部屋の窓から，西の空に半円の虹が見えました。日が昇るとともに消えていきました。主虹しか見えませんでした。



図 11　半円の虹

20261101